

5. 装飾芸術美術館

「ロケッタ」内に設置されたイタリアの装飾芸術として最も重要なこの収集は、購入や寄贈のおかげで増加し続けている。特に11～18世紀に活躍した貴金属裁断師、陶芸師、彫刻師、銀細工師、彫金師、つづれ織り職人、織物師たちの並外れた手工芸品を展示している。ルネッサンス期のファエンツァ市やウルビーノ市やペザロ市で制作された陶器やマヨリカ焼、1700年代ロンバルディア地方のフェリーチェ・クレリチとパスクワレ・ルバーティの作品、そして素晴らしいマイセンの陶磁器。貴重なこのコレクションの中でも抜き出ているのが



1504～1509年にかけてブラマンティーノの下絵をもとにロンバルディア地方で制作された傑作「トリブルツィオのつづれ織り」、古典後期及び中世の象牙、祭礼用品、リモージュの磁器、ガラスやブロンズ小像など美術館には珍しい一般にあまり知られていない小芸術作品の部門で展開されている。多岐に渡るこの行程は、兵器と1700～1800年代の布帛と服装の展示で完了する。

6. 楽器博物館

イタリア、そして欧州でも最も顕著で貴重なこのコレクションは、ナターレ・ガリーニの熱意から生まれたもので、今日、欧州はもとより欧州圏外の楽器も含まれている。「アンドレア・ガアルネリ」の署名入バイオリンをはじめとするクレモナ製弦楽器、ジョヴァンニ・グランチャーニのピオラを筆頭とするミラノの有名工房の製品、「携帯用」小型バイオリン、アントワープ出身のヨハネス・ルッカーズ（1600年頃）のダブル・ヴァージナルなど豪華で類のない手工芸品に魅了させられる。

